

新年を迎えて

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、保護者や教職員、市町（組合）教育委員会をはじめ、関係の皆様には、子どもたちの学びとつながりを保障するため、感染症対策の徹底を図りながら教育活動が継続できるようご尽力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

昨春、小中学校に続き、高校におきましても新しい学習指導要領が年次進行で実施となり、小学校での教科担任制の導入や、全ての校種における児童生徒1人1台端末を活用した教育実践など、ICTを基盤とした教育環境の下、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた、令和の新しい時代の教育が本格的にスタートしました。

府教育委員会におきましては、新しい時代の学びを実現するため、ICTを活用した学習支援やICT教育の人材育成を行う拠点として「京都府デジタル学習支援センター」を開設し、ICTの活用能力や授業における効果的な使い方など、教員の資質向上の取組などを進めてきており、各学校現場におきましても、ICTを活用した様々な教育活動が実施されてきております。

今後は、コロナ禍の中で急速に整備が進んだICTをツールとして活用し、子どもたち一人一人の学びの充実につなげていくことが重要であり、来年度には、一人一人の学力の伸びや非認知能力を分析し、指導に生かす「京都府学力・学習状況調査」学びのパスポート」を本格実施し、本調査を通じて、学力の向上を図ってまいりたいと考えております。

また、子どもたちの学びに大きな役割を果たす教職員の働き方改革を一層推進するとともに、長引くコロナ禍が子どもたちの心にも影響を及ぼしていることが懸念されることから、引き続き、関係機関と連携し、子どもたち一人一人に寄り添った支援や相談・サポート体制の充実に取り組んでまいります。

さらに、少子化が進む中、文化・スポーツ活動をはじめ、子どもたちの学びの環境を確保していくことが重要であり、各地域の実情や課題を踏まえた教育環境の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

府立学校におきましては、昨年3月に策定した「府立高校の在り方ビジョン」の具現化にあたり、外部有識者による懇話会を設置し、様々な観点からご意見をいただいているところであります。令和5年度中には、今後の府立高校全体の望ましい方向性を示す基本計画を策定することとしており、地域の実情を踏まえた魅力ある府立高校づくりを確実に進めてまいります。

また、昨年4月に「地域と共に歩む学校」を教育理念とする井手やまぶき支援学校を開校し、子どもたちが地域で自分らしく暮らし、働くことができ、共生社会の担い手となれるよう一層取組を進めるとともに、向日が丘支援学校の改築整備を円滑に進め、教育と福祉の連携による切れ目ない支援のさらなる充実を目指します。

今春には、いよいよ文化庁の京都移転が実現いたします。子どもたちが文化芸術に親しむ機会を一層充実させ、豊かな感性や創造性を育むとともに、京都が誇る文化財の魅力の国内外への発信に努めてまいります。また、史跡「恭仁宮跡」の整備活用をはじめとする府内の文化財の保存・活用や、丹後地域の歴史・文化・観光の拠点となる丹後郷土資料館のリニューアルを進めてまいります。

全ての子どもが「包み込まれているという感覚」を実感でき、「自己肯定感」を高めることができる環境を整えていくためには、学校だけではなく、家庭や地域、市町（組合）教育委員会、PTAなどの関係機関との連携を強化し、社会総がかりで教育に取り組むことが不可欠であります。

子どもたちが京都で学べてよかったと感じ、よりよい社会と幸福な人生を創り出せるよう、皆様と手を携えながら、京都府の教育の実現に全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、今年一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

令和五年一月

京都府教育委員会教育長 前川 明範